

2014年11月の金融経済概況のポイント

—— 主に10月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

▶基調判断はややトーンダウンしました。

—— 10月までの「基調的には着実に持ち直している」から、「基調的には持ち直している」に変更。

▶項目別には、個人消費と公共投資の判断が、従来より「弱め」となっています。

個人消費：「回復に向けた動きが広がっている」⇒「回復がやや足踏み状態となっている」

公共投資：「足元一服感がみられるが、高水準で推移している」⇒「高水準ではあるが、足元の発注は減少している」

—— 今年度の公共事業は、年度初に前倒し発注が行われたのですが（4～6月前年比：+25.6%）、夏場以降は発注が減少し、4か月連続で前年を下回っています（7～9月同：▲34.8%、10月同：▲22.0%）。

■個人消費の動向

- 個人消費については、大型店売上高が、4月の消費税率引き上げ後、駆け込み需要の反動減によるマイナス幅を着実に縮小し、8月には僅かながら前年を上回りましたが、9、10月は再び前年割れの状態に戻っています。

▼大型店売上高

							—— 前年比、%
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
▲6.5	▲3.4	▲2.3	▲1.2	+0.6	▲1.6	▲1.7	

- 生鮮食品等の生活必需品の売上は順調ですが、衣料品の売行きが振るわなかったほか、高額品購入の動きもやや鈍くなっているようです。消費マインドが慎重化している感もあり、夏場までの回復の動きが、ここへきてやや足踏み状態になっています。

■雇用の動向

- 雇用については、一段と改善しています。9月には、新規求人数が増加する中で、有効求人倍率はバブル期並みの高い水準となっており、道北でも「人出不足」の声が各業界で聞かれます。因みに、網走では、有効求人倍率が1倍を超えました。

■モノ、カネの動き

- この間、金融機関の貸出は、5月以降半年に亘って増加を続けています（残高前年比：3月末▲0.1%→6月末+0.5%→9月末+1.3%→10月末+1.3%）。また、貨物輸送量も春先以降、伸びを高めています（4～6月前年比：+1.1%→7～9月同+8.3%）。これらの動きをみると、モノやカネの動きは活発になってきているように窺われます。

■今後のポイント

- ①労働需給の引き締まりが賃金に与える影響が注目される中で、②歳末商戦に向けた消費動向がポイントになると思われます。
- 労働需給が一段と引き締まる中で、今後、賃金面にどのような影響が及ぶのか、注目点です。
- こうした雇用・所得環境の下で、今般の消費税率再引き上げの延期決定や、電気料金の値上げ実施が、消費者のマインド面も含めて、消費行動にどのような影響を及ぼすのか。歳末商戦に向けた消費動向がポイントとなります。また、マインドに関しては、12月短観（12月15日公表予定）でも確認する必要があります。

以 上



